

16

医薬品の利用



今日の学習

わたしたちは、病気やけがを治すために薬を利用することがあります。薬には、主作用と副作用があることを知っていますか。ここでは、薬の正しい使い方について学習しましょう。

やってみよう

次の①～⑤について、飲み薬の使い方として正しいものには○、間違っているものには×を付けてみましょう。

- ① 痛みがひどかったので、書いてあった使用量よりも少し多めに薬を飲んだ。……………()
- ② カプセルが飲みづらいので、中身だけを取り出して飲んだ。……………()
- ③ 同じような症状だったので、以前に病院から処方された薬の残りを飲んだ。……………()
- ④ 注意書きに「食間に飲むこと」と書かれていたので、食事の最中に飲んだ。……………()
- ⑤ 自分が病院で処方された薬を、妹が欲しいと言ったが、断った。……………()

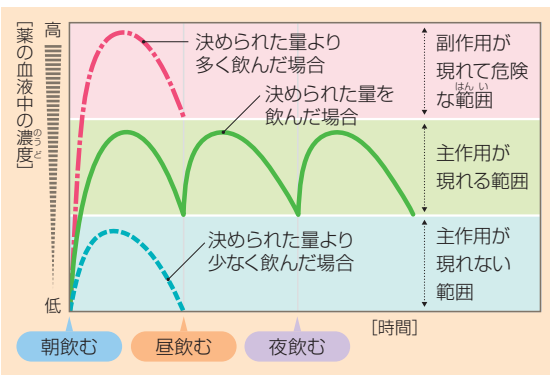
キーワード

- 医薬品
- 主作用
- 副作用

医薬品のはたらき

医薬品の主作用とは、病気の治療や予防などに効果的な作用（効き目）のことで、本来の使用目的でもあります。しかし、医薬品は、本来の目的とは異なる好ましくない作用もあわせもっています。これを医薬品の副作用といいます。副作用は、医薬品の性質、使用する人の体質や病気の状態、使用方法などにより現れることがあります（資料1）。

資料1 医薬品の使用量と作用（1日3回飲む薬の場合）



薬の量や飲む回数は、血液中の薬の濃度が、ちょうどよい範囲に保たれるように定められている。

資料2 医薬品のいろいろな形

- 内用剤（飲むもの）
カプセル、シロップ、錠剤、散剤など
- 外用剤
なんこう、点眼剤、トローチ、消毒剤など
- 注射剤
注射、点滴

※飲みやすく、効き目が効果的に現れるように、形状が定められている。

A 16 × (1804年、華岡青洲という医者が、世界で初めて全身麻酔による手術を行った。)

活用

考えてみよう

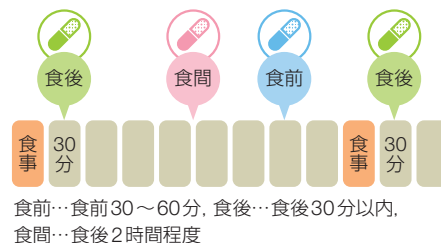
かぜ薬の使用上の注意に、「服用後、乗り物または機械類の運転操作をしないでください」と書かれている場合があります。その理由について考えてみましょう。

医薬品の使用方法

医薬品には、主作用がはたらいて副作用ができるだけ現れないように、1日当たりの使用回数や使用時間帯、使用量、使用方法などが決められています。病院などでは、ひとりひとりのそのときの状態に合わせて処方されるため、ほかの人が使用したり、残ったものを後で使用したりすると、健康に対して深刻な影響を与えることがあります。

また、医薬品には、薬局やコンビニエンスストアなどで購入できるものも、たくさんあります。こうした医薬品を使用する場合にも、ほかの医薬品と併用して使用してもよいのか、どのような副作用があるのかなど、使用上の注意点を確認し、正しく使用することが大切です。医師や薬剤師に相談しながら、医薬品を効果的に使用しましょう。

資料3 食前・食後・食間の薬の飲み方



①「15歳未満は服用しない。」といった注意書きがある場合は、服用できる年齢が制限されている成分が含まれている場合があります。小学生であれば使用量を少なくすればよいというわけではない。

②処方せんがなくても、自分で選んで購入できる医薬品のことをOTC薬（Over The Counter Drugの略）という。

③医薬品医療機器情報提供ホームページでは、市販されている医薬品の情報を検索できる。

④ <http://www.info.pmda.go.jp/>

資料4 薬の手帳

自分が使用した薬の名前や量、使用方法、使用時期などを記録しておくもの。病院や薬局で提示すると、いっしょに飲んではいけない薬を別々の病院から処方されたり、自分に合わない薬を処方されたりすることを防止できる。



資料5 薬局で医薬品の説明をする薬剤師



生かそう

自宅の救急箱にある薬の注意書きや説明書には、どのようなことが書かれているか、確認してみましょう。

- 【判断すること】
1. 次の人は服用前に医師、歯科医師又は薬剤師に相談していただきたい
 - (1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人
 - (2) 妊娠又は妊娠していると思われる人
 - (3) 水痘（おたふく病）を患ったことがある人
 - (4) 過去にアレルギー反応のある人
 - (5) 本人又は家族がアレルギー体質の人
 - (6) 薬によりアレルギー反応を起こしたことがある人
 - (7) 過去にアレルギー反応を起こしたことがある人

Q 17 薬を飲むときに、いっしょに飲んではいけないものはどれか。
①牛乳 ②ジュース ③ぬるま湯 ④コーヒー

